

テーマ ゆるゆると学校応援団を楽しもう！

発表者 岐阜市鏡島小学校PTA 松田征児(現会長) 若山貴嗣(H26年度会長) 浅口朱里(H26年度副会長)
小川現樹(H27年度会長) 瀬古美紀(H27年度副会長)

1 はじめに

本校は、中山道、乙津寺、お紅の渡しなど歴史と伝統に溢れた地域にあって、明治6年乙津寺境内に開校して以来143年の歴史を刻んでいる。

2 PTAの問題点

(1) 役員のなり手が少ない

少子化、共働き家庭、一人親家庭、介護負担のある家庭などの増加に伴い中核を担っていた専業主婦層が減少したことによる。

(2) 組織の特性

毎年行われるメンバーチェンジ、任期が短期間な為業務改善が困難で前年踏襲が精一杯、増えやすく減らしにくい業務性、活動負担の平等性、義務感、やらされ感の増大により楽しくない活動となりがち。

3 主な取組み

上記のPTA特有の事情を踏まえ、できる人が、できる時に、できること、を共通の目的にして、誰もが参加しやすい活動を目指すという思いをテーマの「ゆるゆる」という言葉に込め、主な取り組みは下記の2点。

(1) 業務の省力化

ア 積極的なメール活用

配布物の印刷、封入、配布の手間が減少し、役員間において情報のスピーディー且つ確実な共有化に繋がった。

イ PTA総会の見直し

参加しやすく気兼ねなく意見交換できる場を目指し、開会閉会の言葉や登壇しての会長の挨拶の廃止、式次第の簡素化、必要以上に堅い言い回しは避け、分かりやすく簡単な話し言葉に変え、セレモニー色を極力省くことで時間短縮に繋がりを、より充実した学校方針の説明や先生紹介に充てることができた。

ウ 行事の優先順位

数ある行事の内、子どもに直接関係するものを優先し、間接的な成人教育の一番予算のかかる日帰り研修旅行を中止したことにより約十数万円の予算を別の活動に充てることができ年々減少する会費のより有効な運用に繋がった。

エ 会議への参加は子連れOK

自分の子どもを疎かにして他人の子どもの為に活動するってやっぱり変だ。

遠慮しがちな子連れでの会議参加が容易になるよう、積極的な声かけを実施した。

子どものための活動であるのに、がんばればがんばるほど自分の子どもとの時間が減ってしまうという矛盾も今後の重要な課題のひとつ。

(2) 充実させ続ける運動会

4年前発足したおやしボランティアチームと共に、テント設営の補助、様々な表示パネルの設置、保護者のテントスペースの設定、場所取りの警備、駐車場や駐輪場の整理、校内パトロール、確実な分煙、トイレトペーパーの補充、撤収作業、ゴミ拾いを通じて先生の負担軽減支援を実施。

(3) 今後検討すべき新たな活動

ア アウトソーシング

運動会当日のみPTA会費によって警備員3名を雇い、駐車場の整理などに従事。

様々なPTA活動の中で可能な場面があれば会費でアルバイトを雇い業務の代行を検討してもいいのではないかと考える。

イ 役員報酬

完全無償活動というイメージが根強い中、慎重な議論を要するが、毎年頭を悩ませている役員決めには何かしらの効果があるはず。

4 地域とのつながり

赤十字、自治会、消防の協力を得て行う防災教室、米作りを子どもたちに伝える米米クラブのおじいさん、青少年育成協議会、農協の協力を得て行う稲作体験、鏡島の伝統行事にもなってきた凧揚げ、鏡島太鼓の演奏など、円滑なPTA活動には、親、先生だけでなく地域とのネットワークが必要不可欠である。地域に感謝し、地域とのともに生き、地域とともに楽しみながら伝統を残して行くのもPTAの役目として引き継いでいきたい。

5 最後に

やってダメならまた元に戻せばいい。

子どもの命に関わる以外もっと自由でいいはず。

これも私たちの「ゆるゆる」。

私たちの活動が引き継がれ、時には形をかえながら、自分の子供たちが親となった時に、今よりもっと気軽にゆるゆると参加できる学校応援団としてのPTAであったならサイコーだ。

発表のための活動はしない。

できる人が、できるときに、できることを。

それが鏡島小学校PTAのテーマです。